

モニタリングサイト1000 2005年越冬期調査 ー速報ー

日本野鳥の会自然保護室／NPO法人バードリサーチ

モニタリングサイト1000にご協力いただき、ありがとうございました。おかげさまで、図 1および表 1に示したように、全国109名の方にご協力いただき、1道26県 合計80か所（森林61か所、草原19か所）で調査を行なうことができました（2006年4月以降に送られたデータは含まれていない場合があります）。昨冬に実施した51地点とあわせ、これまでに調査できた地点は131地点になります。以下に調査により見えてきたことをまとめます。

調査方法

調査地は、森林または草原環境が続く場所に、距離 1kmで、両側50mずつの合計100mの調査コースを設定した。調査は、時速 2km程度で歩きながら両側に出現した鳥の種類、個体数を記録するものである。調査回数は 2日に渡って合計 6回実施し、調査日の間隔は 2週間程度である。調査は2005年11月中旬から2006年 2月中旬に実施した。解析にあたっては、個体数を用い

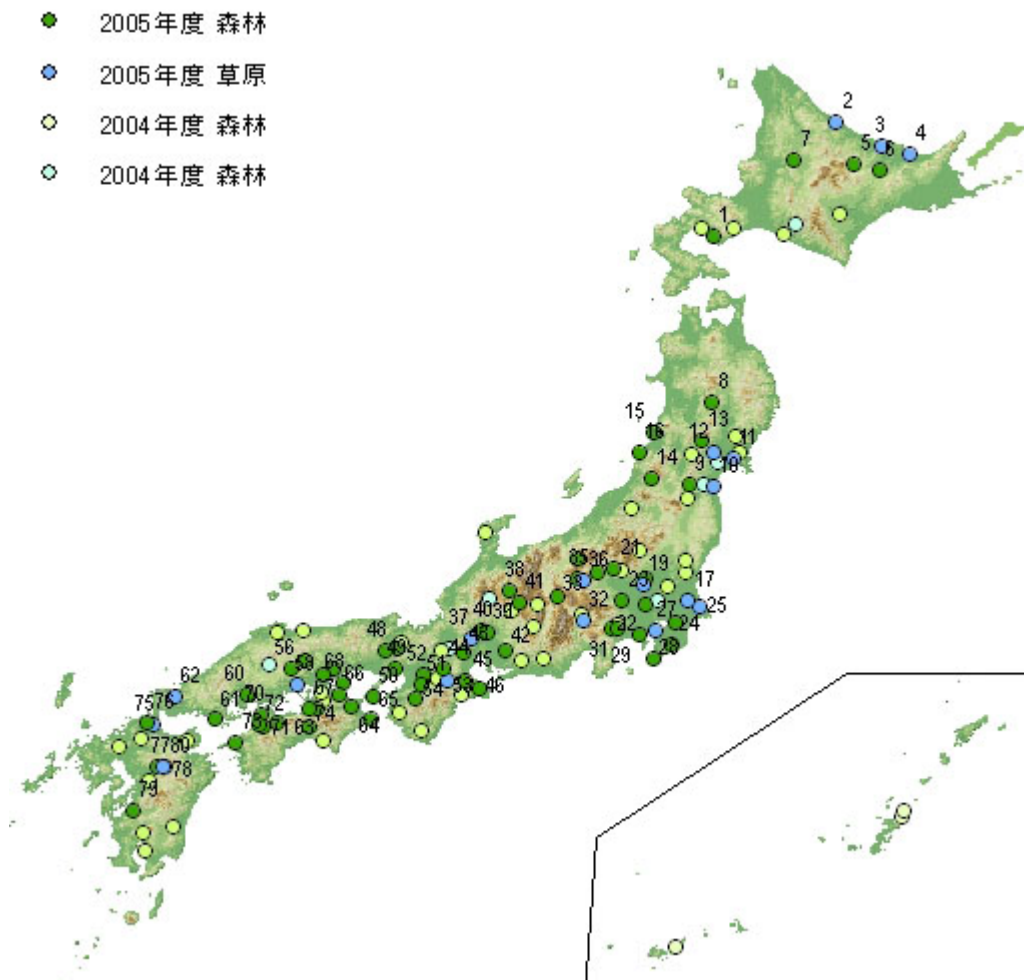


図 1. 調査地の分布。数字は表 1 の通し番号に対応する

表1. 調査地及び調査者一覧

No.	都道府県	コースNo	コース名	調査員名	調査協力者	環境
1	北海道	100255	有珠善光寺	篠原盛雄		森林
2	北海道	100261	興部	川崎康弘	川崎里実	草原
3	北海道	100263	佐呂間別川	嶋崎太郎		草原
4	北海道	100264	小清水原生花園	川崎康弘		草原
5	北海道	100265	十八号沢川	嶋崎太郎		森林
6	北海道	100267	チミケツブ	嶋崎太郎		森林
7	北海道	100280	春光台	高野正	柳田和美	森林
8	岩手県	100034	豊沢	佐々木仁		森林
9	宮城県	100038	蔵王硯石	小室智幸		森林
10	宮城県	100320	山元町牛橋開拓地	三浦隆		草原
11	宮城県	100321	旧北上川下流	工藤芳郎	杉山啓二	草原
12	宮城県	100322	荒谷	竹丸勝朗		草原
13	宮城県	100323	荒雄岳観光道路	小山均	富樫悦夫	森林
14	山形県	100048	大規模林道入り口	大沢八州男		森林
15	山形県	100049	酒田北部	石川喜春		森林
16	山形県	100051	温海	齋藤修		森林
17	茨城県	100254	浮島草原	明日香治彦		草原
18	栃木県	100424	太平山	鈴木晃		森林
19	栃木県	100425	渡良瀬遊水地第1調節池	平野敏明		草原
20	群馬県	100306	榛名湖	植木正勝		森林
21	群馬県	100343	赤城山	小林広喜		森林
22	埼玉県	100336	見沼代用水東縁斜面林	小荷田行男		森林
23	埼玉県	100337	埼玉県越生	佐久間博文		森林
24	千葉県	100081	麻綿原	田中義和		森林
25	千葉県	100271	笹川	田中利彦		草原
26	千葉県	100302	泉自然公園	柴茂	柴知子	森林
27	千葉県	100303	木更津小櫃川河口三角州	田村満		草原
28	千葉県	100304	館山野鳥の森	山形達哉		森林
29	神奈川県	100246	横浜自然観察の森	松田久司		森林
30	神奈川県	100317	桧洞丸稜線部	畑俊一		森林
31	神奈川県	100319	丹沢札掛	関野祥子	浅川久子、池上武比古、舟木嘩子、脇田信雄	森林
32	山梨県	100104	笛吹川支流濁川	中村司		草原
33	長野県	100108	尾玉小鳥と緑化の散策路	篠崎知明		森林
34	長野県	100114	志賀高原 自然観察路	羽田収		森林
35	長野県	100454	1000m林道	斉藤信		森林
36	長野県	100455	発地	斉藤信	平田聡子	草原
37	岐阜県	100121	揖斐川舟付保護区	日比野晃祥		草原
38	岐阜県	100345	高山市城山公園	宝田延彦		森林
39	岐阜県	100346	須衛	伊藤恭博		森林
40	岐阜県	100347	金華山	酒井泰和	酒井義弘、酒井博子、市原公子	森林
41	岐阜県	100348	濁河温泉	宝田延彦		森林
42	愛知県	100248	豊田市自然観察の森Bコース	大畑孝二		森林
43	三重県	100311	朝明渓谷	近藤義孝	市川、村田、尾畑、川島	森林
44	三重県	100312	法花奥山	前澤昭彦		森林
45	三重県	100314	松阪ちとせの森	中村洋子		森林
46	三重県	100315	大床谷コース	山田昭子	林淳子、高木和夫、伊藤孝夫、吉居瑞穂	森林
47	兵庫県	100206	村雲	梅津節雄		森林
48	兵庫県	100207	谷川	梅津節雄		森林
49	兵庫県	100257	六甲山周辺	岩崎健二	奥野俊博、伊賀文計、石井正二、田中葉子、河藤昌子	森林
50	兵庫県	100259	諭鶴羽山上田谷	五百蔵聡		森林
51	奈良県	100211	葛城山	川瀬浩		森林
52	奈良県	100308	矢田丘陵	上山義之	黒田伸一	森林
53	奈良県	100309	曾爾高原	揉井千代子		草原
54	和歌山県	100273	和歌山県高野山	中西正和	別所邦博	森林
55	岡山県	100142	有漢市場	小見山節夫		森林
56	岡山県	100143	芋原コース	小見山節夫		森林
57	岡山県	100282	100282	妹尾映児		森林
58	岡山県	100284	笠岡湾干拓地	津田浩		草原
59	岡山県	100285	岡山南部	太田達夫	太田智子	森林
60	広島県	100342	灰ヶ峰 桧原線	住岡昭彦	森山宏一、片山卓	森林
61	山口県	100297	牛島	小林繁樹		森林
62	山口県	100298	秋吉台	小林繁樹		草原
63	徳島県	100160	箸蔵寺参道	高井正明		森林
64	徳島県	100250	野鳥の森	市原眞一	森本陽子 森本ひろみ 森本秀樹	森林
65	徳島県	100252	伊島	吉田和人	森本秀樹、森本ひろみ、森本陽子	森林
66	香川県	100161	志度	十一正雄		森林
67	香川県	100164	讃岐豊浜（大野原、五郷、有木）	真鍋哲也		森林
68	香川県	100247	寒霞溪	片山一	片山繁子	森林
69	愛媛県	100324	石鎚山	山本貴仁		森林
70	愛媛県	100326	高縄山	岩本孝	植田吉純、小川次郎、真鍋啓二、上沖正欣	森林
71	愛媛県	100327	皿ヶ峰	小川次郎	鴨井環	森林
72	愛媛県	100328	愛媛県総合運動公園	水口玲子		森林
73	愛媛県	100329	諏訪崎自然休養林	水本孝志	水本比登美	森林
74	高知県	100172	角茂谷	高橋徹		森林
75	福岡県	100340	平尾台	前田伸一		草原
76	福岡県	100341	道原	三重野暁詔		森林
77	熊本県	100286	菊池渓谷清水谷	有馬宏幸		森林
78	熊本県	100287	一の宮（阿蘇）	田中忠		草原
79	熊本県	100292	大関山	大岩憲治		森林
80	熊本県	100469	木落牧場（阿蘇）	田中忠		草原

て計算する優占度については、100m幅の調査範囲内のデータのみを使用した。それ以外の解析には、調査範囲外を含む全データを使用した。

結果および考察

1. 記録状況

表 2に、都道府県ごとに記録された種の一覧表を示した。2005年の越冬期には、全国80か所の調査地で外国産鳥類も含め13目39科132種が記録された。これらの中には、森林性や草原性の種ばかりでなく、ウミウやヒメウ、エトロフウミスズメ、シロカモメやオオセグロカモメといった沿岸性の水鳥も多く記録された。都道府県別の記録種数は、11～55種が記録され、このうち40種以上記録されたのは、北海道（42種）、宮城県（55種）、栃木県（40種）、千葉県（55種）、岐阜県（46種）、岡山県（54種）、愛媛県（42種）であった。ただし、都道府県による記録種数の違いは、調査地数や調査環境によって影響されているので、上記の地域に鳥が多いということを示すわけではない。

環境別の記録状況をみると、森林の調査地では合計94種、草原の調査地では合計93種が記録された。草原の調査地数が19か所と少ないにもかかわらず森林の調査地とほとんど同じ種数が記録されたのは、草原の調査地では河川や湖沼、海岸などに接した場所が多く含まれることと、低木林や森林も調査範囲に含まれるため、草原性の種に加え、水鳥や疎林・林縁性の種が多く記録されたためである。

2. 出現率

記録された種のうち出現率の高い15種を表 3にまとめた。全調査地に基づく出現率では、ハシブトガラスが88.8%と最も高く、次いでヒヨドリ（85.0%）、シジュウカラ（78.8%）、コゲラ（78.3%）、ヤマガラ（67.5%）、エナガ（62.5%）、ウグイス（57.5%）の順であった。森林の調査地だけでみると、コゲラ（93.4%）、ハシブトガラス（91.8%）、シジュウカラ（91.8%）、ヒヨドリ（88.5%）、ヤマガラ（86.9%）、エナガ（78.7%）、ウグイス（60.7%）の順で、コゲラ、ハシブトガラス、シジュウカラの3種は9割以上の調査地で記録された。

草原の調査地では、ハシボソガラス（89.5%）、ハシブトガラス（78.9%）、ヒヨドリ（73.7%）、トビ（73.7%）、ホオジロ（68.4%）、ツグミ（68.4%）、カワラヒワ（63.2%）、ノスリ（63.2%）の順であった。草原の調査地では、トビやノスリ、ミサゴといった猛禽類も出現率上位に位置した。

3. 優占度

各調査地の最多個体数に基づく調査地1か所あたりの平均優占度（以下優占度と呼ぶ）を表4にまとめた。全調査地を対象として計算した優占度では、ヒヨドリ（11.7%）、メジロ

No.	記録種	北海道	岩手	宮城	山形	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	神奈川	山梨	長野	岐阜	愛知	三重	兵庫	奈良	和歌山	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	熊本
	森林調査地点数	4	1	2	3	1	1	2	2	3	3	1	3	4	1	4	4	2	1	4	1	1	3	3	5	1	1	2
	草原調査地点数	3		3		1	1			2		1	1					1		4	1	1						
1	カイツブリ																											
2	カシロカイツブリ																											
3	カワウ			●		●				●		●		●								●						
4	ウミウ																											
5	ヒメウ	●																										
6	オオサギ					●				●		●																
7	コサギ									●																		
8	オオサギ					●				●																		
9	オオサギ																											
10	ヒシギ																											
11	オオハクチョウ																											
12	コハクチョウ																											
13	ハクチョウ類																											
14	オオハク																											
15	オオハク																											
16	カハク																											
17	コハク																											
18	ヨシガモ																											
19	ヒシギ																											
20	オオハク																											
21	ハシロ																											
22	ハシロ																											
23	キョロ																											
24	オオ																											
25	ロード																											
26	シロ																											
27	コオ																											
28	オオ																											
29	シロ																											
30	オオ																											
31	カハク																											
32	シロ																											
33	トビ																											
34	オオ																											
35	オオ																											
36	オオ																											
37	オオ																											
38	オオ																											
39	オオ																											
40	オオ																											
41	オオ																											
42	オオ																											
43	オオ																											
44	オオ																											
45	オオ																											
46	オオ																											
47	オオ																											
48	オオ																											
49	オオ																											
50	オオ																											

表2. 都道府県別記録種一覧(つづき)

No.	記録種	北海道	岩手	宮城	山形	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	神奈川	山梨	長野	岐阜	愛知	三重	兵庫	奈良	和歌山	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	熊本	
	No. 記録種																												
	森林調査地点数	4	1	2	3	1	1	2	2	3	3	1	3	4	1	4	4	2	1	4	1	1	1	3	3	5	1	1	2
	高原調査地点数	3		3		1				2			1	1				1		1			1						
51	クマリ			●		●																							
52	ハクシギ					●																							
53	ノシギ					●																							
54	クシギ					●																							
55	ヒメカサギ					●																							
56	オオセウロカモメ	●		●																									
57	ユリカモメ																												
58	セウロカモメ																												
59	シロカモメ	●																											
60	カモメ	●																											
61	ウミネコ																												
62	エトロウアシナズメ	●																											
63	カラスノト																												
64	キツノト																												
65	アオノト																												
66	コムズク																												
67	カワセミ																												
68	アマガシ																												
69	アマガシ	●																											
70	クマガウ	●																											
71	アマガシ		●																										
72	オオアマガシ																												
73	コウラ	●																											
74	キツノキ科		●																										
75	ヒバリ																												
76	キセキレイ																												
77	アウセキレイ																												
78	セウロセキレイ																												
79	ヒンズイ																												
80	タヒナリ																												
81	ヒトリ	●																											
82	モズ																												
83	オオモズ																												
84	キレンシヤク	●																											
85	ヒレンシヤク																												
86	レンシヤク科	●																											
87	カワガラス																												
88	ミンササイ	●																											
89	カヤウリ																												
90	ヒメヒタキ																												
91	シヨウヒタキ																												
92	トウワキ																												
93	アハハラ																												
94	シロハラ																												
95	マミチヤウチイ																												
96	ツクシ	●																											
97	ツクシ科																												
98	ウグイス																												
99	キクイタダキ																												
100	セウカ	●																											

表2. 都道府県別記録種一覧(つづき)

No.	記録種	北海道	岩手	宮城	山形	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	神奈川	山梨	長野	岐阜	愛知	三重	兵庫	奈良	和歌山	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	熊本	
	森林調査地点数	4	1	2	3	1	1	2	2	2	3	1	3	4	1	4	4	2	1	4	1	1	3	3	5	1	1	2	
101	エリカ	●	●	●	●		●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●
102	ハシヅトカヲ	●																											
103	コカラ	●	●	●	●			●			●		●	●		●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●
104	ヒカラ	●	●	●	●			●			●		●	●		●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●
105	ヤマガラ	●	●	●	●			●			●		●	●		●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●
106	シジュウカラ	●	●	●	●			●			●		●	●		●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●
107	ミヤマホオジロ	●																											
108	キハシリ	●																											
109	メジロ																												
110	ホオジロ																												
111	コシユリ																												
112	ホオノカ																												
113	カシラダカ			●																									
114	ミヤマホオジロ																												
115	フオシ																												
116	クロシ																												
117	オオジュリン																												
118	フトリ	●																											
119	カワラヒバ																												
120	マヒワ	●																											
121	ギンザンノシロ	●																											
122	イヌカ	●																											
123	ハニベンゴ	●																											
124	ウソ	●																											
125	イカル	●																											
126	シメ																												
127	ニホウチイヌズメ																												
128	ヌズメ																												
129	ムクドリ																												
130	カケス	●																											
131	ホシガラス																												
132	ミヤマガラス																												
133	ハシボソガラス	●																											
134	ハシヅトカヲ	●	●	●	●			●			●		●	●		●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●
135	コシユケイ																												
136	カビチヨウ																												
137	ソウシチヨウ																												
	合計種数	42	12	55	34	39	40	26	27	55	31	22	38	46	21	36	33	31	20	54	31	24	27	26	42	11	34	38	

表3. 記録された種の出現率ベスト15

No.	全調査地(80か所)		森林(61か所)		草原(19か所)	
	種	出現率(%)	種	出現率(%)	種	出現率(%)
1	ハシブトガラス	88.8	コゲラ	93.4	ハシボソガラス	89.5
2	ヒヨドリ	85.0	ハシブトガラス	91.8	ハシブトガラス	78.9
3	シジュウカラ	78.8	シジュウカラ	91.8	ヒヨドリ	73.7
4	コゲラ	73.8	ヒヨドリ	88.5	トビ	73.7
5	ヤマガラ	67.5	ヤマガラ	86.9	ホオジロ	68.4
6	エナガ	62.5	エナガ	78.7	ツグミ	68.4
7	ウグイス	57.5	ウグイス	60.7	カワラヒワ	63.2
8	ハシボソガラス	55.0	メジロ	57.4	ノスリ	63.2
9	ホオジロ	53.8	キジバト	55.7	モズ	57.9
10	キジバト	52.5	カケス	54.1	スズメ	52.6
11	カワラヒワ	51.3	シロハラ	54.1	ウグイス	47.4
12	アオジ	47.5	アオジ	50.8	ジョウビタキ	47.4
13	ツグミ	47.5	ホオジロ	49.2	キジバト	42.1
14	メジロ	46.3	カワラヒワ	47.5	ミサゴ	42.1
15	トビ	46.3	ハシボソガラス	44.3	キジ	42.1
15					ハクセキレイ	42.1
15					ヒバリ	42.1

表4. 環境別の優占種ベスト15

No.	種名	全調査地(80か所)		種名	森林(61か所)		種名	草原(19か所)	
		優占度(%)			優占度(%)			優占度(%)	
		範囲	平均		範囲	平均		範囲	平均
1	ヒヨドリ	0~47.8	11.0	ヒヨドリ	0~47.8	13.4	ハシブトガラス	0~38.5	9.1
2	マヒワ	0~68.6	5.6	マヒワ	0~68.6	7.2	スズメ	0~46.3	9.0
3	メジロ	0~37.1	5.4	メジロ	0~37.1	7.1	カワウ	0~89.8	8.2
4	エナガ	0~29.2	5.4	エナガ	0~29.2	6.8	ホオジロ	0~26.1	6.5
5	ハシブトガラス	0~38.5	5.3	シジュウカラ	0~24.2	6.0	ヒバリ	0~53.8	6.1
6	シジュウカラ	0~24.2	4.7	アトリ	0~83.1	5.1	マガン	0~74.2	6.1
7	アトリ	0~83.1	3.9	ハシブトガラス	0~25.0	4.1	ハシボソガラス	0~20.0	5.1
8	カワラヒワ	0~64.5	3.6	ヤマガラ	0~16.7	3.7	カワラヒワ	0~37.0	3.5
9	スズメ	0~46.3	3.3	カワラヒワ	0~64.5	3.6	ヒヨドリ	0~38.5	3.4
10	ホオジロ	0~26.1	2.9	ヒガラ	0~31.3	3.3	コガモ	0~41.3	3.3
11	ヤマガラ	0~16.7	2.8	コゲラ	0~8.3	2.8	マガモ	0~26.6	2.7
12	ヒガラ	0~31.3	2.5	マガモ	0~62.2	2.1	ツグミ	0~8.9	2.6
13	ハシボソガラス	0~20.0	2.3	ツグミ	0~22.5	2.0	トビ	0~15.0	2.2
14	マガモ	0~62.2	2.2	ホオジロ	0~14.0	1.7	ムクドリ	0~27.8	2.0
15	コゲラ	0~8.3	2.2	シロハラ	0~9.7	1.7	キンクロハジロ	0~35.4	1.9

優占度は調査地ごとの優占度を計算しそれを調査地数で割った平均値を用いた。その場合、記録されない種は0として計算し

(5.7%) , エナガ (5.5%) , ハシブトガラス (5.5%) , シジュウカラ (5.4%) , マヒワ (4.8%) , スズメ (4.5%) , カワラヒワ (3.9%) の順で高かった。優占度の高い15位までの種をみると、コゲラを除くとすべて、冬期に数羽から数百羽の群れで生活する種であった。森林の調査地では、ヒヨドリ (14.2%) , メジロ (7.4%) , エナガ (7.0%) , シジュウカラ (6.9%) , マヒワ (6.2%) , アトリ (5.0%) , ヤマガラ (3.9%) , ハシブトガラス (3.9%) の順で高かった。草原の調査地では、スズメ (13.5%) が最も高く、以下ハシブトガラス (10.6%) , ハシボソガラス (7.9%) , ホオジロ (7.4%) , ヒバリ (7.4%) , コガモ (4.5%) , カワラヒワ (4.5%) の順で高かった。上位種を見てみると、農耕地や疎林・林縁性の種からなっていたが、記録地数は少ないものの、大きな群れで記録されることが多いカワウやカモ類も上位を占めた。そのため、マガンのように特定の調査地に記録され、他のほとんどの調査地で記録されなくとも優占度の上位種に位置する。したがって、種によっては、今回の結果が必ずしも多くの調査地に当てはまるとは言えないかもしれない。

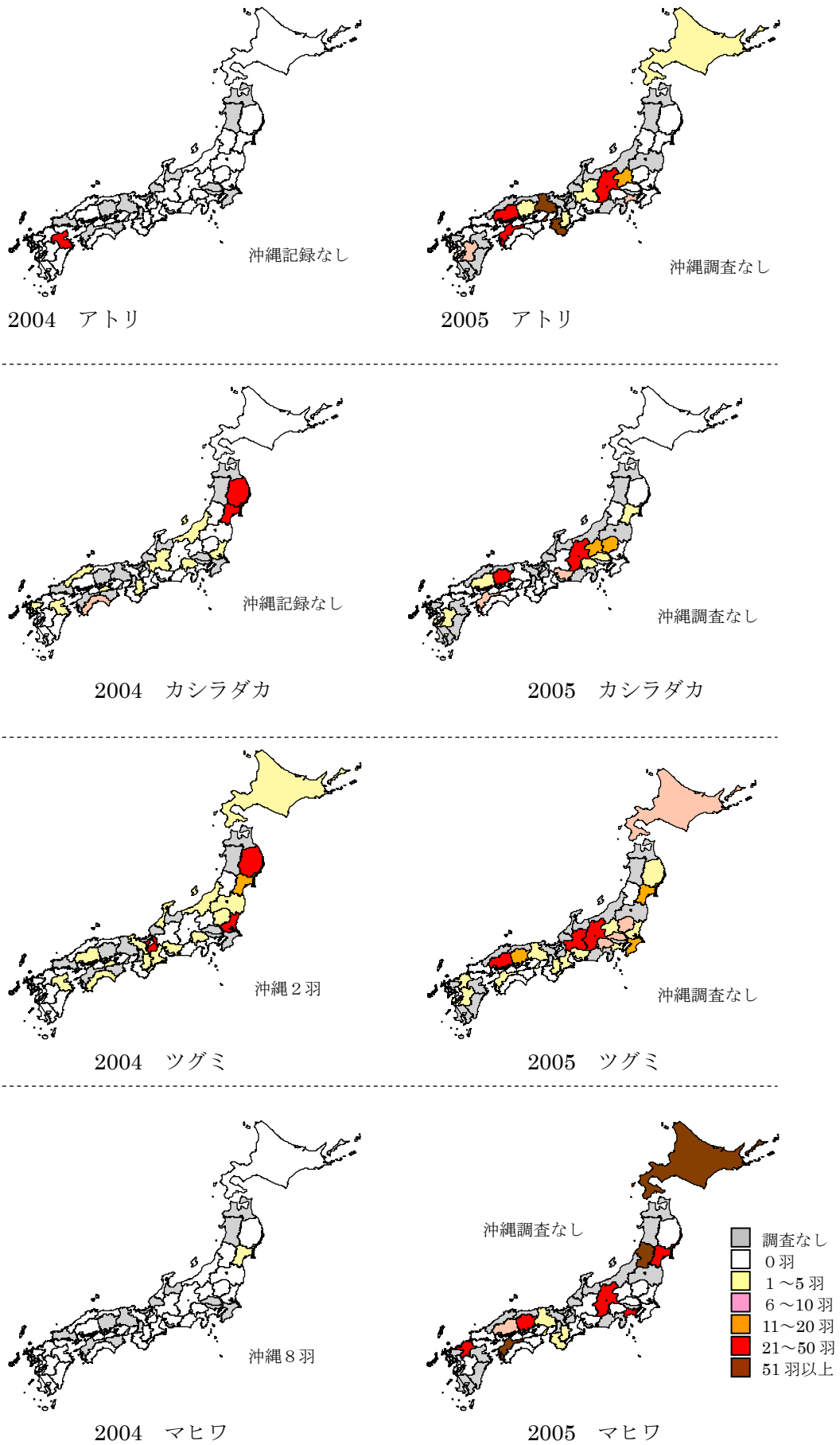


図2. 代表的な冬鳥4種の2004年と2005年の越冬期の生息状況の比較

4. 冬鳥の渡来状況

冬鳥のうち、森林性および疎林林縁性の種で代表的なツグミ、カシラダカ、アトリ、マヒワの4種の記録状況を図2にまとめた。ツグミは38か所の調査地で記録され、調査地あたりの個体数は、広島県の調査地で35羽が最も多く、次いで長野県の調査地2か所でそれぞれ32羽、岐阜県の調査地で28羽、宮城県の調査地で16羽の順で多く記録された。個体数の多い都道府県をみると、中部地方から西の地域で多い傾向がみられた。

次に、カシラダカは14か所の調査地で記録され、調査地あたりの個体数は岡山県の調査地が22羽で最も多く、長野県の調査地が21羽で続き、群馬県、栃木県、愛知県の調査地が12～10羽と続いた。数の多さに地域的な傾向は認められなかった。

アトリは、17か所の調査地で記録された。調査地あたりの個体数は、和歌山県と兵庫県の実験地で大きな群れが記録され、300羽と236羽がそれぞれ記録された。広島県の調査地では30羽が記録され、愛媛県の2か所では27羽と23羽がそれぞれ記録され、長野県の調査地の22羽が続いた。本種の記録個体数の上位10か所の都道府県をみると、近畿地方以西の調査地で個体数が多い傾向がみられた。

マヒワは、20か所の調査地で記録された。山形県の調査地で最高200羽が記録されたのが最も多く、次いで愛媛県の調査地の60羽、北海道の調査地で51羽、岡山県の調査地で40羽、神奈川県の実験地で35羽の順で多かった。記録個体数の上位10位までの調査地をみると、個体数の多さに地域的な偏りは認められなかった。

ところで、冬鳥では渡来状況が年によって著しく変動することが知られている。そこで、上記4種の2004年と2005年の冬期の記録個体数を比較した。2004年の冬期では、アトリとマヒワは39か所中それぞれ1か所で記録されたに過ぎず、記録個体数も22羽と1羽が記録されただけであった。ツグミは17か所で記録され、最高50羽が岩手県の調査地で記録された。次いで茨城県29羽、滋賀県22羽、宮城県15羽の順で多く、関東地方以北の調査地でも個体数が多く記録された。カシラダカは、13か所の調査地で記録され、岩手県の調査地の50羽が最も多く記録された。次いで宮城県の2か所で21羽と19羽が記録されたが、他は1～4羽が記録されたに過ぎなかった。

両年で調査地や調査地数が異なるため正確な比較はできないが、以上の結果から、少なくともアトリとマヒワは2005年の冬期は2004年と比較して渡来数が多い可能性がある。一方、ツグミは2004年の冬期のほうが生息数は多い可能性がある。カシラダカについては、最高羽数は2004年のほうが2005年より多いが、一部の地域を除くと記録個体数は1～4羽であるので、両年で違いがあるかどうかは明らかでない。ただし、ツグミとカシラダカの記録された地域をみると、2004年には東北地方でも多くの個体数が記録されたが、2005年ではどちらかというところ中部地方から西側の地域で多い傾向があるように思われる。どちらも地上付近で採食する種であるので、両年の積雪量の違いによる可能性がある。

なお、草原や疎林に生息する代表的な冬鳥と考えられるカシラダカの出現率は、全調査地80か所中14か所（17.5%）に過ぎない。似たような生息環境に生息するホオジロは43か所（52.5%）で記録されている。これをみると、カシラダカの記録された調査地数が著しく少ないように思われる。この違いは、両種における生息環境の選好性の違いも関係していると考えられるが、渡来数が少なかった可能性が考えられる。

最後に

今年度の調査は80か所で調査を行なうことができたが、冬期の鳥類には冬鳥が多く含まれ、その渡来数は年によって著しく異なることが経験的に知られている。そのため、各調査地の生息種や生息数は、繁殖期よりも変動が著しいと考えられる。そこで、越冬期の鳥類相をより正確に把握するとともに経年的な変化を明らかにするには、日本各地の多くの調査地で長期間にわたって継続的に調査を実施する必要がある。

しかし、そのような冬期の調査であっても全国80か所で調査を実施したことによって、わが国の越冬期の鳥類相の傾向がある程度把握できたと考えられる。たとえば、越冬期に森林でコゲラやシジュウカラ、ヒヨドリ、エナガ、ヤマガラ、ウグイスの優占度が高かったわけだが、優占度の順位は異なるものの繁殖期の森林の優占度とほぼ同じであることがわかった。冬期もこれらの種が日本の森林の鳥類相を構成する代表的な種といえよう。

ところで、今回森林での調査が61か所で行なわれたわけだが、トラツグミ、イスカ、ビンズイは1か所、ヤマドリは3か所で記録されたに過ぎなかった。これらの種は、森林性や疎林林縁性の種で、森林の調査地ではもう少し多くの場所で記録されることが予想された種である。このうちイスカは冬鳥で年によって渡来数が著しく異なることが知られており、本越冬期に渡来数が少なかったことが記録された調査地が少なかった理由の可能性もある。また、ヤマドリとビンズイについては、今回の調査でこれらの種が選好する生息環境が含まれなかった可能性がある。一方、トラツグミは、トラツグミの生息環境と同様の環境に生息するアカハラやシロハラがそれぞれ6か所、33か所と記録されていることを考えると、やはり著しく記録地が少ないように思われる。本種は、環境省が行なっている自然環境保全基礎調査の繁殖分布調査では、近年繁殖分布の縮小が顕著な種とはされていない。記録地数が少ない理由の一つには、本種は越冬期にはあまり大きな声で鳴かないことや動きが活発でないため、生息していても調査者の目に付きにくかったのかもしれない。しかし、その一方で、繁殖分布調査の調査は日中になされているので、夜間や薄暮時に囀る本種の正確な生息状況を把握することができていなく、実際には減少しているにもかかわらず、その実態が正確に把握されていない可能性もある。もしそうだとすると、今回記録された調査地が少ないのは、生息数の減少を反映しているのかもしれない。今後、本種の個体数や生息分布の変化に注意を払う必要があろう。